

大人が絵本を 第39回 ワクワクが



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事ファウンダー

ペンギン スマホゲーム vs 絵本

「歩きスマホ禁止」。ハワイのホノルル市は今年10月から、道路を横断する際の歩きスマホを禁止、違反者には罰金を科す条例を施行しました¹⁾。歩きスマホ人口の増加に、世界規模で大きな影響を与えた位置情報ゲームアプリ「ポケモンGO」は、2016年の発売後、人の命を奪うという悲惨な事件を引き起こしました。スマホだけでなく、ゲームなどのアミューズメント環境の著しい変化は、子どもたちにとって魅力あふれるものでしょう。けれども、心身の健全な発達を考えたとき、スマホや電子ゲームでむしばまれてしまう危険がいっぱいの社会なのです。このような社会の中で、脳と心の成育を促進する読書に、子どもたちを惹きつける仕掛けをすべての大人が積極的に実践していく必要があります。

大人の仕掛けがなければ、子どもたちは光を放つ刺激と、テーマパーク的な要素に興味をそそられ、スマホゲームに手を出すでしょう。子どもは元来、好奇心旺盛で、探究心の塊なのです。その好奇心と探求心のベクトルを絵本に向けてあげましょう。湧き出た疑問を、「なんで?」「どうなっているの?」と積極果敢に知ろうとしますし、初めて見るものや珍しいこと、予想もしていなかった出来事を発見すると、その驚きを全身全霊で表現します。このような子どもの特性である好奇心をくすぐり、驚きと喜びへと導く仕掛けで、スマホゲーム以外の遊びに興味・関心を持たせてあげれば良いのです。そんなとき、手っ取り早いのは、物語絵本よりも、科学絵本です。

『じんべえざめ』(文化出版局)や『カワセミ』(新日本出版社)などは、生き物の写真やダイナミックな

『じんべえざめ』
新宮晋 著(文化出版局)



イラストが表紙になっているので、それを見ると「すげえ〜」「知ってる〜」など感嘆の声や感想が飛び出します。もう、表紙をめくらずにはいられません。『トマトのひみつ』(福音館書店)や『パンができるまで』(岩崎書店)は、おいしそう表紙を見ただけで食べたくなるし、何のヒミツが隠されているのだろうかと、その世界をのぞいてみたくなります。スマホゲームになど負けない魅力がたっぷり詰まっているのです。

ペンギン くすぐって。刺激して。好奇心!

目につくものすべてに好奇心いっぱいの子どもたちです。科学絵本を読む前に、ワザと好奇心を刺激することも、絵本の世界にのめり込む秘訣です。『鳥の巣の本』(鈴木まもる著)を読む前に、イミテーションの巣を見せると子どもたちは巣に群がってきます。本物の巣であれば、大興奮でしょう。都市化など環境の変容で、鳥の巣を見つける子はほとんどみられなくなりました。子どもたちに鳥の巣を見せても、それが「巣」だと答えられるのは小学生くらいからです。しかし、それまで知らなかった「巣」が鳥の巣であることを知った途端に、巣への興味は一気に高まり、子どもたちの心を埋め尽くしてしまうのです。「誰が作ったの?」「中を見せて!」。そこで、科学絵本の登場です。

『鳥の巣の本』の表紙は、形も色も大きさも異なる8個の巣が、その巣の鳥と一緒に描かれていま

手にするときは！

止まらない、科学絵本

企画 濱野 良彦
構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)

す。でも、子どもたちが知っている鳥の名前は2、3種くらいですので、本文で鳥の名前と巣の確認です。おわん型にボール型、ドーム型など鳥別に幾種類ものタイプがあって、作る場所も木の上や軒下などあちこち違うということが分かると、子どもたちはその新しいものごとを知り得たことによるワクワク感や自信が高まり、ますます目を輝かせて、「次は？次は？」と前のめりになってくるのです。「鳥の巣」が鳥の「家」ではなく、お母さんのお腹の中と同じで卵やヒナを温める安全な場所との情報をキャッチすると、絵本を開く前は未知だったことが、もはや既知に早変わりです。そして、「お母さんのお腹の中と同じ」というワードで、小学生も2、3歳児もお母さんにとっこり見つめあい、親子の絆の確認ともなって、子どもたちは巣を身近なものとしてとらえるのです。

子どもの興味・好奇心を育むのに手早いのは、身近な自然や事物を子ども目線で発見することと、その不思議や仕組みを知ることのできる絵本、または図鑑と出会わせてあげること、これらが合わせ重なったとき、より強力に強化されます。

科学絵本の大家かこさとし氏91歳!!

国内における科学絵本の先駆者といえば、かこさとし氏で、『からすのパンやさん』を代表する数々の名作絵本で著名です。1926年に生まれ、現在91歳のかこ氏は、土壌学・地質学を専門とする工学博士でもあり、民間会社で研究者生活を送った科学者としてのキャリアに基づいて、子どもたちに「それなんで？」「これなあに？」との興味・関心を湧き起こし、そして「そうなんだ」と理解・納得できる構成の、子どもに分かりやすい科学絵本が特徴です²⁾。

かこ氏が初めて手掛けた科学絵本に遡ってみましょう。時は昭和37(1962)年、三種の神器が一般家庭に急速に普及し始めた頃、福音館書店の月刊絵本「こどものとも」7月号に『かわ』は掲載されました。それは、私たちの暮らしの中で、川やダムがどのように役立っているかを示すお話です。



『かわ』かこさとし作
(福音館書店)



山の雪解けが少しずつ広がり、平野部を流れ、最後は海へと流れ出る物語が、横長サイズの絵本を効果的に活用して、見開きの画面いっぱいに広がりを見せた大胆な絵の構成で、絵が物語る世界へと読み手を惹きこんでいきます。川の流れ、ダムの役目、水力発電による電気の流れを知る科学絵本ですが、1、2歳の子どもたちには線路を指でたどったり、学校やトラックをみつけたりして遊ぶだけでも楽しめるのです。

進化する絵本！ 色あせない知識！

初版出版から50年以上も、世代を超えて読み継がれてきた、今でも人気の28ページから成る『かわ』が、半世紀の時を超えて2016年9月に新しく生まれ変わりました。その姿はなんと全長約7メートルと、圧巻の絵巻となり、左右開き両面で何倍も楽しめるつくりとなっています。初版と同じ言葉が添えられた面は、初版から色味を変え、川が引き立つように黒と水色の二色刷り、そして初版と同じカラー刷の絵の面からは、言葉を取り、文字のない絵本という仕立てになっているのです。50年前に出版され



た科学絵本が、「科学」の要素をグレードアップして生まれ変わりました。



『絵巻じたて ひろがるえほん かわ』
かこ さとし作
(福音館書店)



冊子体の絵本では、山から下流へとページをめくると、徐々に進んでいっていた川が、絵巻では全ページを広げると、源流から海までの川の流りが眺望できるのです。『絵巻じたて ひろがるえほん かわ』は、初版が出版された「こどものとも」の創刊60周年記念として出版され、既に立派な大人になった当時の子どもたちも、現役の子どもたちも、誰しもがトキめいてしまうほどの秀逸な科学絵本となっています。



子どもたちのお友だち「こどものとも」、 知識の宝箱「かがくのとも」

『かわ』が最初に掲載された「こどものとも」のタイトルを聞くと、児童書出版社大手の福音館書店を思い起こさない人はいないのではないのでしょうか。「三種の神器」の誕生を宣伝し始める直前の1956年に創刊された月刊保育絵本で、当時は幼稚園など幼児教育施設への月刊予約という販売方法でした³⁾。その後、同社は68年に「こどものとも 年中向き」、69年には「かがくのとも」を創刊し、対象年齢やテーマがユーザーに分かりやすく分化されていくのです。この福音館「かがくのとも」の創刊を経て、科学絵本が市民権を得てこどものための科学の本の普及興隆に発展しました⁴⁾。1970年代といえば、絵本ブーム到来の時代です。

福音館書店は「福音館“三種の神器”」のまま留まっておらず、1977年に「年少版こどものとも」、85年「たくさんのふしぎ」が創刊され、子どもたちの未来を見据えた月刊絵本5本柱となりました。そ

して、時代は21世紀、同社はもっと先の未来を見据え、2002年に「ちいさなかがくのとも」を創刊するのです。

来年、生誕50周年を迎える「かがくのとも」は、科学絵本の草分けとして、日本の子どもたちの科学する心を育ててきました。科学といえば、図書館で使用されている日本十進分類法でいう4類の、動物や植物、宇宙や天文など自然科学分野を思い浮かべがちですが、それだけではなく、『カエサルくんと本のおはなし』(0類)から『言葉はひろがる』(8類)まで、あらゆる知識・情報が対象なのです。

泳ぐことや、水に顔を浸けることに恐怖心を持つ子どもたちが多いなか、『およぐ』(なかのひろたか作)は人間がどうして水に浮くのか、どうやれば前に進めるのか、水への恐怖心を克服するにはどうすれば良いのかを、わずか28ページで語っています。毎年、夏に大活躍する絵本で、読み終わりに「きみも泳げそうかな？」を添えると、子どもたちから「うん！」とか、「洗面器でやってみる！」など、絵本と対話したそのままの感想や意欲の言葉を聞くことができる、司書の秘かな楽しみをもつ一冊です。

アナログとデジタルの違いを説明した『アナログ？ デジタル？ ピンポン！』(野崎昭弘 文)は、「科学」と聞いただけで敬遠してしまう大人にも役立つ科学絵本です。堅苦しそうな科学書なんて開くことすら避けがちな大人の皆さんも、絵本で楽しく理解できます。



子どもたちの興奮する声、感動の声が聞きたくて

「科学絵本」というと、大人は子どもに知識を教えるための学習参考書と考えがちですが、物語絵本が文字や言葉、事物を教える「教育」を第一義の目的にしていないことと同じで、楽しむためのものという大前提を忘れてはなりません。鳥越信氏は、「科学絵本の“科学”の持つ意味とは、“なぞとき”のおもしろさの科学を作ってきた人たちの『人間のすばらし

さ』がわかるような物事であったり、予想をもって自分の頭の中でイメージして対象に問いかけたりするようなものである」とし、「あるテーマに関して、ストーリーを持って、めくって展開していく世界」であって、「『ものの見方の新しい視点』を与えてくれるものがその特性」と位置付けています⁴⁾。

子どもたちの好奇心をくすぐって、スマホゲームとは質の異なるクリエイティブな喜びや感動を与え、さらなる興味・関心を引き起こさせる遊びの世界なのです。「なんだ、それ？」の探求心を持ち、「すっげえー！」と興奮したり感動したり、「そうかあ」「そうなんだあ」と納得して自信がつき、それから「やりたーい」という行動力と実践力につながる科学遊びの道具が、科学絵本ということです。子どもたちは、楽しいことやおもしろい遊びの中で、工夫する知恵や知識を確実に吸収していきます。それは直接的であったり、間接的であったり、じわじわと熟成されていったりと様々です。私たち大人の役割は、子どもの好奇心や探求心に刺激を与え、脳の発達を促す思考や喜び、感動体験へつなげるお手伝いをするということです。

科学の遊び心いっぱい！魅惑的な医療機関

お子様をお持ちの親御さんは、わが子のためにとの親心から、「園児になったのだから」とか「小学校にあがるまでには」と、つつい絵本を教育目的にすり替えてしまうこともあると思います。そんなとき、第三者の大人が、大人に対して軌道修正をしてあげることが、この国の子どもたちをみんなで育てていく使命にある我々の役割です。地域の子どもたちは、地域で育児支援していくのですから、子どもの医療に携わる小児歯科医療スタッフの役割でもあります。もしかしたら、若い親御さんには「科学絵本＝学習絵本」の認識があるかもしれませんが、そんな活用をしていたのでは、子どもたちの楽しみが奪われてしまいます。学習目的

で科学絵本が子どもたちの手元に届けられたとしたら、知識は増えても、豊かな心の育成に影響してしまうかもしれません。急いで物事を知ろうとするのではなく、ゆっくりと楽しみながら触れてみることに、考えること、それに遊び倒すこと、これらが大事なのです。皆様方の地域で、ぜひとも発信していただきたいです。科学絵本の本当の楽しみ方を、絵本の喜びを、小児歯科医院から。

科学絵本だって赤ちゃんから楽しめるもので、文字のない絵本『どうぶつのおやこ』『じどうしゃ』（共に福音館書店）、絵本をめくる楽しみまで取り入れられた『やさいのおなか』『しっぽのはたらき』『たねのずかん』（共に福音館書店）は、チェアサイドでもおすすめです。驚きや興奮を与えて、意識・興味を絵本に向かせるなら、『シロナガスクジラより大きいものっているの？』（評論社）、『パンサーカメレオン』（ほるぷ出版）、『しりとりあそび（全3巻）』（小学館）、『ふしぎなナイフ』（福音館書店）と、まだまだありますが、このへんでお開きとさせていただきます。



『どうぶつのおやこ』
藪内正幸 画
(福音館書店)



ありがとうございました！

文献

- 1) ホノルルで「歩きスマホ」禁止 全米初10月から、罰金も、日本経済新聞 web刊, 2017/8/1 HP <http://www.nikkei.com>.
- 2) 河出書房新社 編：アイデアのメモは僕の宝物、文藝別冊 KAWADE 夢ムック (かこさとし 人と地球の不思議とともに), p.20-33, 東京, 2017.
- 3) 大橋真由美：福音館書店の絵本－「こどものとも」九六号までを中心に (In 鳥越信：はじめて学ぶ日本の絵本史Ⅲ), ミネルヴァ書房, 京都, 2002, pp.16-21.
- 4) 瀧川光治：科学絵本の五〇年の歴史 (In 鳥越信：はじめて学ぶ日本の絵本史Ⅲ), ミネルヴァ書房, 京都, 2002, pp.239-261.